

深夜の個室ビデオ店の成人向けコーナーに行ったら、そこが出会い場になっていて常連たちに何度も絶頂させられました♡

(来ちゃった……)

深夜の十二時を過ぎた頃。仕事終わりのコンビニ帰りに、私はいつもと違う道を歩いていた。

気づいたらここに来ていた、というのが正直なところだ。

繁華街の外れ、路地をひとつ曲がった先にある個室ビデオ店。ビルの地下に潜った入り口には小さな看板だけが出ていて、表通りからはほとんど見えない。

先週、同僚の男性が酔って喋っていたのをたまたま聞いてしまった。

『あそこの地下、成人向けコーナーあるんだよ。個室で好きに見られるんだよ』

そういう場所があることは知っていたけれど、行

ったことはなかった。

好奇心、だった。それと一週間分のストレスに、どこにも向けられない欲みたいなもの。それらを抱えたまま歩いて、気がついたら入り口の前に立っていた。

緊張で心臓を高鳴らせながら中に入ると、薄暗い受付で料金を払う。スタッフの男性はこちらをちらりと見て、それから少しだけ声をひそめた。

「成人向けフロアは、奥の突き当たりを右です。深夜は……常連の方が多いので、もし何かあれば受付までどうぞ」

「……何か、って？」

「いえ、ご存知ないようでしたら……」

それだけ言って、スタッフは視線を手元に戻した。

(どういう意味だろう……)

細い廊下を奥へ進む。左右に個室のドアが並んで

いて、いくつかのランプがオレンジ色に光っている。突き当たりを右に曲がると、『成人向けエリア』と書かれたプレートがあった。

中に入ると、普通の個室エリアとは少し造りが違った。完全に閉じた個室ではなく、仕切りが低い。腰の高さほどのパーテーションで区切られたブースが並んでいて、隣との距離が近い。照明は落とされていて、各ブースの小型モニターだけが青白く光っている。

深夜だというのに、人がいた。ぽつぽつと、パーテーションの向こうに人の気配がする。全員男性のようだった。

(……思ったより人がいる)

空いているブースに滑り込んで、椅子に腰を下ろす。モニターに手を伸ばしてチャンネルを変えると、すぐに成人向けの映像が流れ始めた。

見始めてすぐ、視線を感じた。

そっと周りを確認すると、薄暗がりの中でこちら

を見ている目がいくつかある。年齢層はばらばらだ。二十代らしい若い男も、四十代くらいの体格のいい男もいる。全員が、何かを値踏みするような目でこちらを見ていた。

（女の人に来るのが珍しいのかな……？）

そう思ってモニターに目を戻そうとしたとき、一人の男がこちらへ近づいてきた。

三十代前半くらい、背が高く、肩幅がある。薄暗い中でもわかるほど顔が整っていて、ゆっくりとした動作でパーテーションに手をかけ、隣のブースに入ってきた。

声音は低く、耳のすぐそばで鳴るような質だった。

「一人か？」

小さな声だけど、ひそひそとはしていない。ただ私だけに届くよう、男は顔を傾けた。

「こんな時間に、こんなところ。珍しいな」

「え、あの……」

「受付で何か言われなかった？ 深夜のここが何かは、もう気づいてるだろ」

他の男たちが聞き耳を立てているのが雰囲気からわかる。

「ええと……」

（常連がいるって受付の人も言っていたけど……鑑賞会、とか？ でも、それを私から言うのも、恥ずかしいな……）

どう答えていいかわからずもじもじしていると、男は答えを待たず私の隣に腰を下ろした。逃げ道を塞ぐように。

「あんたもそうなら、ちゃんと相手してやるよ」

言葉の意味を考える間もなく、男の手が私の背中